

当院における新型コロナウイルス遺伝子検査の振り返りと今後の遺伝子検査機器の活用

◎伊藤 将大¹⁾、湊 水希¹⁾、上田 真美¹⁾、井上 由美¹⁾
社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院¹⁾

【はじめに】新型コロナウイルス感染症は2019年12月以降、急速に全世界に感染拡大した。この流行でほとんどの医療機関に遺伝子検査機器が導入され、新型コロナウイルス遺伝子検査は一般的なものとなった。しかし、2023年5月8日に5類感染症へ移行後、遺伝子検査件数は減少傾向にあり、遺伝子検査機器の活用について変遷の時期を迎えた。この現状を踏まえ、当院における新型コロナウイルス遺伝子検査の実施状況を振り返り、今後の遺伝子検査機器の活用について考察したので報告する。

【保有機器】当院は現在、LoopampEXIA（栄研化学）3台、Autoamp（島津製作所）1台、GeneXpert（ベックマンコールター）2台、GENECUBE（東洋紡）1台を保有している。

【遺伝子検査機器の活用】2020年4月から2024年12月までの月別・年別新型コロナウイルス遺伝子検査件数の推移と機器別の検査件数を調査した。2024年6月より結核菌群・MAC核酸同定検査を外注検査からGENECUBEでの院内検査に移行し、検査開始から2025年4月と前年同

期間の検査件数について比較した。

【結果】月別では2022年8月4835件をピークにそれ以降は減少傾向にあった。機器別ではLoopampEXIA 48203件、Smartamp 970件、GeneXpert 19676件、GENECUBE 11340件であった。現在の遺伝子検査機器の使用状況はLoopampEXIAとGeneXpertに2極化していた。また、結核菌群・MAC核酸同定検査の院内検査移行前後の検査件数は、結核菌群：移行前が155件、移行後が153件、MAC：移行前が88件、移行後が131件であった。

【考察】2023年5月以降、新型コロナウイルス遺伝子検査件数は減少傾向にあることが確認できた。また、院内検査に移行した結核菌群・MAC核酸同定検査の検査件数は移行前と比較して横ばいであることから、院内検査への切り替えがスムーズにできたと判断できる。今後も導入した遺伝子検査機器の更なる有効活用のため、臨床側とコミュニケーションを図りながらニーズに応えられるよう努めていきたい。

【連絡先】0956-33-7151(内線:1184)